

ひのたいしんびん

昭和63年 7月13日

発行 ひのたいしんびん 編集発行部

6月24日

健康会協力会
日野支部総会
ひらかれる

あ、たかならんいきですね。参加者の感想から

六月二十四日日野台地区センターで協力会日野支部の第四回の総会が開かれました。小雨のふるあいにくの天気だったので五十二名が参加、大変にぎやかな会になりました。

振り返ってみると本当に一年間いろいろなことをやってきました。十一月の健康まつり、十二月のもちつき、一月の新年会、二月の保健大学、四月のお花見（雨でながれました。）五月の憲法記念行事、六月の福祉まつり。七月のやきとりパーティー。本年の支部総会は立川相互病院の増床運動の広がり、地域の自主的な健康づくり運動としての健康チェック運動の広がりのもとでむかえました。また、診療所の所長が宮地先生から佐々木先生にかわったことも注目さ

舞台に御登場頂いたのは次の皆さんです。洪江さん 千野さん 野波さん 菅野さん 池田さん 中村さん 小林さん 八戸さん 程久保コーラスの皆さんです。ありがとうございました。

日野台地区センター

車を友として

脳卒中にて倒れてハビリ六ヶ月の間病院の皆様の手厚い看護、毎日の機能回復訓練の後に退院をして早くも散歩中に踏み出した左足の置き所が悪い場合など、足と左手などに同時に震えがきてしまい、ところどころ立ち往生をしてしまう時があります。危ないの、最近では車椅子を利用するようになりましたが作業療法士の藤井先生は、なるべく歩いた方がよいといわれますので車をおして歩いていきます。車椅子は、ちょっと疲れたときには、腰掛けにもなります。元気のたどころ、車をころがしますが片手片足だけでは思っ



「健康づくり」のレクリエーション

六月十二日近所の方に誘われ、日野市教育委員会主催の「健康づくりレクリエーションの会」に参加しました。遅れてまいりましたので大分すすんでおりました。日野史談会会長の田中 紀子さんが豊田から泉塚、程久保とそれぞれの地名の由来について昔話風にお話くださいました。大きなテーブルにオニギリ、オデン、サラダなどだされ、はじめての方ばかりなのですが「カロリーはどの位かしら」「オデンは、ちょっと塩辛

7月16日 午後4時

ヤキトリパーティー

本席、ご御参り下さい

ようになりません。とくに段差や上り坂のときは、後ろむきでうごかします。危ないことは、承知ですがこの方法が素早く処置出来て良いとおもいます。けれども交通ルールには違反になります。今後とも体力の増進に努め楽しく車椅子を友としていきたいと思ひます。



西奥原 在住 横田 在住

	土	金	木	水	火	月
午前	佐々木(10:00)	宮地	佐々木	佐々木	小林(11:30)	佐々木(10:00)
午後	見島(14:00)	大石	井上	安河地	大石	大石
夜間	鈴木(17:00)	上田	井上	滝田		山田

いわ」などはなしながらおいしくいただきました。そのあとこんど日野台診療所にいらっしゃる栄養士の若森さんが「成人病予防における魚、肉、野菜の摂り方」のお話がありました。短い時間だったのでですが参考になりました。アトラクションは、社教センターの中能さんの手品と松永さんのけんだまの妙技でした。まわりの方からの掛け声もなかなかのものでおおいにもりあがりました。来年もまた元気でおいしまししょう。「まるで七夕様みたい」と冗談もでて楽しいひとときでした。

日野台二目在住 水野イチ

スポットライト

事務職員
塩田 寛



塩田さん
本堂に、さきさき様でした

三年間診療所に勤務しましたが、このたび立川相互病院に勤務することになりました。この三年間、協力会のみなさんをはじめ、たくさんの方にお世話になり、大変感謝いたしております。私の勤務の中では、協力会の活動の占めるウェイトが大きく、とくに後半の一年間は協力会の事務局の担当としての活動に専念することができました。協力会の活動を振り返ると楽しくて勉強になることばかりでした。なにかが楽しかったのか考えてみると医療機関とその患者という関係を超えた相互の信頼関係が土台で、という点にあるのではないのでしょうか。「三分診療」とか「薬づけ医療」など医療に対する批判的な見方がマスコミの姿勢とも重なって支配

的な中で信頼ではなく不信さえ芽生えつつあります。この流れに抗してまさに「信頼」という土台がこの診療所と協力会のなにかにはしっかりとしてえられていると感じています。つまり一緒に様々な活動（これは人によってもとれること）をして「楽しい、勉強になった」という感想をもち、民医連職員として成長できるスバラシイ協力会と診療所がここにありたいことを言いたいです。

健康チェックなど班の活動、班で活動する人をそだてる保健大学の取組など、皆で仲よくしながら、勉強もし、リーダーも育てあっていく。健康を一人一人のこととせず、皆で解決していく。そういう力強い流れがうまれました。



日野台診療所の所長が変わり、宮地先生が立川に帰ることになりました。水い間宮地先生、お世話になりました。宮地先生は、患者の皆さんの事を良く面倒をみて下さいました。保健大学の時もよき相談相手になって下さった本当に頼もしい先生でした。今度の佐々木先生も宮地先生におとらず実に面倒の好き先生であります。私事で申し訳ないのですが、高血圧の事でも色々薬を替えてあれこれと心配をしてくれ、ありがたい事です。痛

風なぞ格別の面倒を見て頂き、お陰様で痛みもとれ歩くのもたいへんに楽になりました。その後心配して患部の写真を撮りレントゲンを撮り申し訳のない程よく面倒をみて下さいました。前の所長の宮地先生もよかったです。が新所長も実に面倒の好い先生である。このような先生にも水く滞まってもらいたくない。私の班にも何人か佐々木先生にお世話になっているが大変と評判がいいときいている。「それは良いとか悪いとかをはつきりいってくれるから私たちは、すきです。」の返事である。今後も宜しくお願いする次第です。

二年間の短い間でしたが、所長の大任をつとめさせて頂いていただきました。感謝いたします。思い出は、つきないのですが、日野台診療所の二年間で学んだことについてふれたとおもいます。それは、患者と医師とがあるいは患者や住民と診療所とが、一緒にいて医療をつくっていくということだと思います。

患者と医師とが協力しあって病気をなおしていくということ。高血圧の人、糖尿病のひと、肝臓病のひとがいます。医者の仕事、正しく病気の成り立ちや治療について判断することです。そして患者は、自分の体の調子や、食事、運動、そして薬をのんでの具合など、生活をふりかえり、生活をかえていくことが大切になります。患者と医者が相談しながら病気をなおしていきます。そういう人が増えてきていきます。このありかたに確信を持つことができました。

立川相互病院の増床の署名は、日野市で一万名近くよせられました。多くのひとたちの努力がありました。老人見舞い金制度の請願など、市議会の傍聴にもいきました。いのちをおろそかにする政治が、ますますはつきりしているなかでの運動でした。診療所も患者も、ともにそだちあいながらやってこれたようにおもいます。一人一人が健康になることから、日野市全体の医療がよくなることさらに国の政治がよくなることまで一歩一歩あゆんでゆこうということだと思えます。診療所としても、私自身としても、勉強しなければならぬ点もわかってきました。一緒につくっていく医療。これがこの二年間、おしえていただいた主なことです。今後の私にとっても診療所にとっても大切なことでありつつけるとおもいます。

健康だより



お陰様で痛みもとれ歩くのもたいへんに楽になりました。その後心配して患部の写真を撮りレントゲンを撮り申し訳のない程よく面倒をみて下さいました。前の所長の宮地先生もよかったです。が新所長も実に面倒の好い先生である。このような先生にも水く滞まってもらいたくない。私の班にも何人か佐々木先生にお世話になっているが大変と評判がいいときいている。「それは良いとか悪いとかをはつきりいってくれるから私たちは、すきです。」の返事である。今後も宜しくお願いする次第です。

診療所と私



二年間の短い間でしたが、所長の大任をつとめさせて頂いていただきました。感謝いたします。思い出は、つきないのですが、日野台診療所の二年間で学んだことについてふれたとおもいます。それは、患者と医師とがあるいは患者や住民と診療所とが、一緒にいて医療をつくっていくということだと思います。

患者と医師とが協力しあって病気をなおしていくということ。高血圧の人、糖尿病のひと、肝臓病のひとがいます。医者の仕事、正しく病気の成り立ちや治療について判断することです。そして患者は、自分の体の調子や、食事、運動、そして薬をのんでの具合など、生活をふりかえり、生活をかえていくことが大切になります。患者と医者が相談しながら病気をなおしていきます。そういう人が増えてきていきます。このありかたに確信を持つことができました。